

# 全医労保育所ニュース

働きのいのある賃金に  
保育所の維持・継続を考慮した委託業者に

## 「保育所が運営しやすいよう 第二共済組合に要望します」(機構)



医労連煙崎中執を先頭に  
保育所機構本部要請を実施

### 機構要請報告

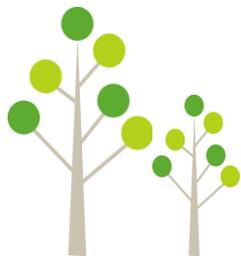
機構側は、太田総務係長以下7人が対応。煙崎中執の要請趣旨の説明のあと、一括回答を受け、続いて参加者から医師・看護師等の確保対策と院内保育所充実、保育所職員の処

全医労は第44回保育所会議の前日6月12日に機構本部要請を行いました。日本医労連煙崎中央執行委員を先頭に地方協代表・本部11人が参加し、看護師等の確保対策と院内保育所の充実、保育所職員の処遇の改善、良質な保育を保障する委託契約、災害訓練の保育所の位置付け等を訴えました。

### 保育所設置責任を持て

遇改善等を訴えました。

機構は昨年同様「院内保育所は第二共済組合の福祉事業の一環として設置・運営しており、機構に決定権限はない」としながらも「病院からの意見も含め、保育所が運営しやすいよう第二共済組合へ要望を行っている」と回答しました。



## 「医療介護総合確保基金、機構も対象に 「栃木・兵庫・大阪・熊本」で採択

また、「昨年度から厚労省医政局が行う地域医療介護総合確保基金事業のうち、都道府県に交付された各県の判断で医療従事者の確保等を行っている。26年度から機構も対象となり『栃木・兵庫・大阪・熊本』の4県で採択された。今後も支援が受けられるよう調整したい」と回答。

### 保育新制度、保育士 争奪戦の対応は

全医労は「機構の病院内保育所の設置責任は機構にあることを念頭におき、現場の声を聞いて対応を図れ」と各地方協代表が訴えました。

2016年4月に千葉つばき保育園でスタートした新制度認可園移行について見解を質したところ、「地域の子どもの受け入れで職員の子どもが入園できなくなることは機構としても懸念している。院内保育所は職員のものであるが、各病院の判断だ。千葉は枠を広げ、



“切実な声を聞いて下さい”



「子育て世代の病院職員とともに保育所職員も  
生き生きと働き続けられる環境をつくれ」

定員増で対応している。制度のハードルは高く、地域の待機児童との関係もあり、各自自治体によって違う。職員の子どもの入園を優先した上で導入は慎重に進めるよう指導している」と回答しました。

保育士の低賃金、保育士不足については「処遇面はピジョン(株)による。新制度で賃金改善は良い方向

**安心・安全な委託業者に**

に流れていると思うが、委託料のしくみを考えると第二共済組合からの補助金と保育料の差額は病院の持ち出しとなり、経営を圧迫している所もある」と回答。

全医労は、京都市立病院の青いとり保育園の委託変更に伴い、保育の質が下がり、職員の確保もままならない状況等を訴えました。

また、2016年度からの新たな委託契約について「職員も保護者も不安。安心の委託先に保育士が働き続けられる条件を作ってほしい」「保育士の処遇は低い。生活できる賃金を、院内保育所は託児所ではない。質

の高い保育を」「機構として処遇改善を予算化せよ。保育の質、処遇の維持を機構としても第二共済に要請せよ」等々訴えました。

機構は「第二共済は保育の質を落とすようなことは考えていないと思う。働きかけは今後も行う」と回答。

全医労は「院内保育所の特殊性を考慮した配置基準、各園の状況を配慮した保育運営を見据えながら、職員の子どもを保育しているという認識を重く受け止め、安心・安全な委託業者の選定および第二共済へ要請をせよ」と強く求めました。

**子育て世代に配慮を**

さらに全医労は子育て世代の職員の労働強化が保育所職員の労働強化につながっている実態、ひいては子どもにしわ寄せがきている

ことを訴え改善を求めました。

「育児短時間勤務にもかかわらず超勤で18時のお迎えが20時に」「育休復帰のお母さんは白衣のままお迎えに来て、子どもを連れて病棟に戻って仕事をしている」「夜間保育を導入したが、本当なら夜勤免除取得を促すべきだ」「病院が病児保育を実施し、外来の保護者である看護師が付く自分の子どもは保育所に預け、熱発しても迎えにいけない」「長時間保育の弊害は論文にもある。子どもの成育にも関わる重大な問題だ」「次世代育成を推進し、十分な人員配置を行え」等訴えました。

**園舎整備、災害対策を**

また、園舎の建て替え整備では全国的に差があり、「子どもの安全な環境を一番に考え



恒例となった機構本部前での記念撮影  
来年もがんばろう！

よ」と迫りました。病院では担当が代わるたびに対応が変わり必要な整備が滞ることも訴え、保育所の必要性とともに指導も求めました。

園舎の新築については、26年度は相模原が7月末に完成予定。27年度は埼玉、北海道医セン(設計中)、山形が新築予定との回答がありました。

災害対策については、「非常ベルが切られてしまった」「非常事態の際、病院に連絡する方法がない」など実態が

出され、女性と子どもしかいない多くの保育所で、「不審者侵入事件も多く聞く。何かあつてからでは遅い。対策を講じよ」と訴えました。

機構は「災害訓練を病院と一緒に実施しているところも増えている。保育所の離れた立地についても承知している」と回答。引き続き、昼間のみならず、夜間や休日にも対応するマニュアルの作成と災害対策について強く要望しました。

# 山形病院 院内保育所 「にじいろ保育園」 全員加入でがんばっています



4月に開園し全医労の仲間になってくれた山形病院「にじいろ保育園」。加入して早速6月の保育所会議にも参加してくれました。支部から園舎の写真とメッセージが届きましたのでご紹介します



山形病院「にじいろ保育園」園舎

平成 27 年4月1日に開園した山形病院の院内保育所(にじいろ保育園)には、ピジョン社員の保育士4名が勤務しています。

「ピジョンの社員であっても山形病院の組合に加入できますよ！」と呼びかけようと事前に労働組合について説明をしたい旨の話をして、保育士の方の勤務が2種類(早出と遅出)あるので、4月 20 日に2回に分けて勤務時間終了後、組合事務室に来てもらいました。

当日は、東北地方協議会の佐々木書記長も同席してもらい、まず、早出勤務が終了した2人に対して山形病院支部の木村書記長から組合とはどういうものか、組合に加入する必要性を説明して、その場で加入届けに記入してもらい加入してもらいました。

その後時間をおいて、遅出勤務が終了した2人に対しては、先に加入してくれた2人の加入届をテーブルの見える位置において、同じように説明をしてその場で加入届けに記入してもらい加入してもらいました。今後は組合が橋渡し役となって、院内保育所の運営や職員の処遇改善に向けて一緒にがんばりたいと思います。(山形病院支部)

## 未来ある子どもを 預かる保育所として

最後に地域医療介護総合確保基金における事業所内保育所関連助成金については、国立病院機構としても確保に努めるよう要求。さらに中丸副委員長から

「病院で働く職員と保育所職員は表裏一体の関係にある。病院職員が働き続けられるよう、大事な子どもを預かっているという認識を重く受け止め、子どもを第一に考えよ。保育環境が守られ、働きがい

のある賃金を保障し、安心・安全の委託業者となるよう再度申し上げて要請を終了する」とまとめの発言があり要請を終了しました。参加者は要請後、機構本部前で記念撮影し「毎年訴えることで、

機構の回答ぶりは少し変わって来た。こうやって声を届け続けることが重要だ。署名など委託更新に向けたとりくみを積み重ねながら来年もがんばろう」と誓い合いました。

以上

個人署名・ひとこと署名、支部要求書の提出のとりくみは進んでいますか？

# 院内保育所問題プロジェクトチーム 各地方協代表1名の選出を！ 10月初旬に第1回会議を開催し、 個人署名・ひとこと署名を提出します。

